

本校の研究の概要

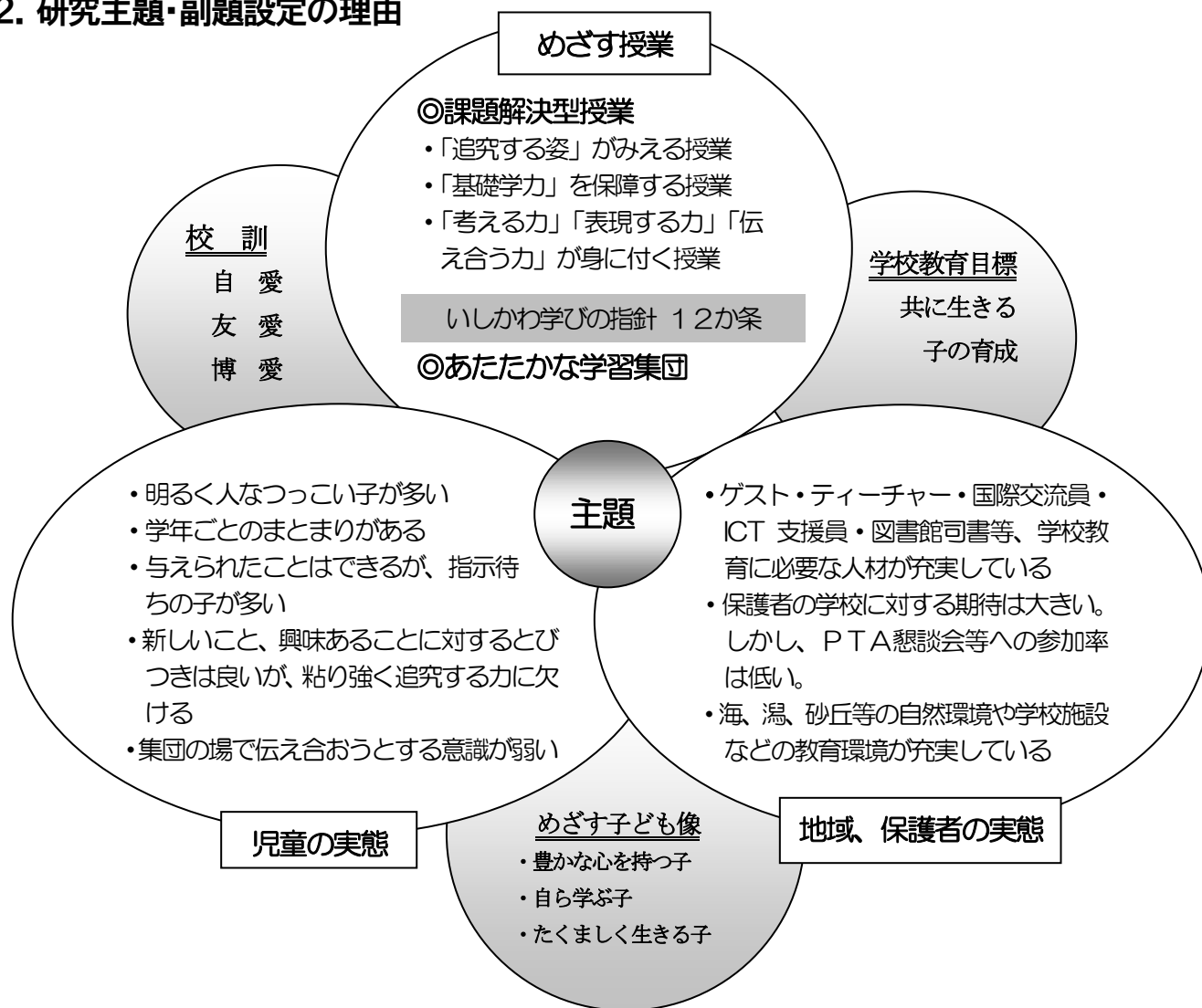
平成25年度 内灘町立清湖小学校

1. 研究主題

自ら考え、追究する子をめざして

～「根拠をもとに表現すること」を通して～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校は平成9年にオープンスクールをめざした特色ある学校として開校された。校舎もオープンスペースのあるめぐまれた環境になっている。開校翌年の平成10年に、学習指導要領が改訂され、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」をねらいとして、総合的な学習の時間が新設された。本校は、めぐまれた教育環境をいかし、総合的な学習の推進校として、児童のより積極的かつ自主的な姿を求めて、5年間にわたり研究に取り組んだ。その結果、コミュニケーション力や実践力において、児童の力は着実に向上した。それは「生きる力」の育成につながる第一歩であった。

平成15年度からは、研究の対象を全ての領域とした。研究主題は「学びをきりひらく子をめざして」とし、**児童が身に付けた学びを活かし、自力で追究を続け、主体的に学習や活動を進めていけるようになることを目指した。**そのため

に、「関わり合う力」「見通しをもつ力」「追究する力」「自己評価する力」をつけたい力として位置づけ、実践してきた。

平成17年度からは、特につけたい力を「追究する力」に絞り、研究主題を「自ら考え、追究する子」とし、追究する姿がみえる授業づくりを実践してきている。「自ら考え、追究する子」とは、課題を見つけ、個や集団の中で既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決に向けて考え、それを表現し合い、さらに新たな課題に向かっていく姿をもとめている。このような学びの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度、本校は「活用力」、すなわち「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導改善の方向性として示された「いしかわ学びの指針12か条」の推進校となった。本校が目指す児童の姿にせまるために、この指針を活かし、考える力を育てようと、

- ① 根拠や筋道を明確に表現させる
- ④ 「書くこと」「読むこと」を通して考え方を身につけさせる

の2項目に特に重点を置き、副題を、『書くこと』を通して考える力を高めるために』とした。一人ひとりが自分なりの考えをもつ「個の追究の場」の充実を図り、根拠や筋道を明確に意識した思考や説明ができるようにすることを目指したのである。実践を積み重ねてきたことで、自分の考えを書くことで表現しようとする意欲が高まり、「なぜそう考えたのか」根拠をもち、解釈を加えて自分の考えを表現することができる子も増えてきた。

さらに、課題の解決や達成に向かって追究し、よりよい変容を図るには、個の追究の場で書いた自分の考えを活かし、自信をもって適切に表現する「伝え合う力」を高め、集団追究の場での話し合いを充実させていくことが必要である。そこで今年度は、副題を「根拠をもとに考え、表現する力を育てるために」とし、指針の

- ⑤ 相手を意識して、「話す力」「聞く力」を身につけさせる
- ⑥ 学び合い学習を充実させる

の具体化を図って、追究する力を高めていきたいと考えた。

昨年度、重点として取り組んだ「書く」ことに加えて、「話す」「聞く」ことによって表現する力を高め、集団追究の場で根拠をもって伝え合う活動を充実させることで、考える力を高め、「そうか」「なるほど」という納得感をもって、よりよい変容が生まれることを目指したい。個の追究の場での高まりを土台とし、集団追究の場の充実を図ることで、主題に迫りたいと考えている。

3. 研究の仮説

児童が見通しをもち追究意欲をもてるような学習課題・学習活動を設定し、根拠を明確にして表現（「書く」「話す」「聞く」）し合う場を大切にしていくことで、子どもたちは、課題の解決や達成に向かって意欲的に取り組み、よりよい変容を図ることにつながっていくであろう。

4. 研究の重点

根拠をもって表現し合う（「書く」「話す」「聞く」）ことで、考える力を高める授業づくりを実践する。

●個の追究の場における「書く」を通して、考える力を高める

課題を追究していくためには、まず、自分なりの考えをもつことが必要になる。自分の考えをしっかりとつことは、児童が課題の解決を目指し、自分の見方や考え方をより確かなものに創り変えていく上で不可欠なものである。そのときに大切にしたいのは、「ただ何となくそう思った」「たぶんそうだと思う」という、単に思いを表出することにとどまることなく、なぜそう思ったのか、その根拠や理由を探ることである。的確にとらえた事実をもとにしたり、学習経験

や既習事項が活かさないかとふりかえったりしながら、自分の考えを持たせるようにしていく。それを、まずは「書くこと」で表現させ、根拠や筋道を明確に意識した思考や説明ができるようにすることを目指す。

(いしかわ学びの指針12か条 ①④)

●**集団追究の場における「話す」「聞く」を通して、考える力を高める。**

さらに、みんなで学び合い、高め合うためには、考えたことをいかに適切に表現するかが大切になってくる。まず、相手に自分の考えをしっかりと伝えるには、筋道を立てて話すなど伝え方を工夫することが必要である。そこで、児童一人ひとりに基本的な話し方・聞き方のスキルを身につけさせるための取り組みを学年の段階に応じて、行っていく。また、相手によく分かってもらうようにするためには、考えの根拠を示し、理由をはっきりと表すことが必要となる。表出された考えを的確にとらえ、自分の考えと比較して違いや共通点を見出したり、友達が伝えた見方や考え方をもとに新たな考えを生み出したりしていく経験を積み重ねていくことで、考える力を高めることを目指す。

(いしかわ学びの指針12か条 ①⑤⑥)

教師は児童の思考の流れを大切にしながら、考える力を高めるための言語活動・授業展開、支援や手立てを工夫し、授業実践をしていく。そして、児童の姿をもとに、授業を振り返り、改善をしていく。それを繰り返していくことで、児童の主体性が育ち、教師の授業力を高めることができると思う。

最終的には、学び合いを通してはっきりしたこと・分かったことを、自分の言葉で、根拠をもって適切に表現できるようにすることを目指す。根拠をもって、表現し合うことで、以下のような「追究する姿」が見られ、子どもたちにとって、1時間1時間が、クラスの仲間と価値ある財産を創り上げることができたと実感できるものとなるようにしたい。

追究する姿

既習事項やこれまでの経験を総動員して自分なりの思いや考えをもち、意欲的に表現し合い、課題の解決に向かっていく姿

	意欲	思考	表現
個の追究	・課題をとらえ、進んで取り組もうとする。	・見通しをもって、根拠をもとに自分なりの思いや考えをもつ。	・自分の思いや考えを書くことで表現する。
集団の追究	・課題解決のために、話を聞いたり、質問したりして、意欲的にかかわり合おうとする。	・友達の考えがわかり、共通点や相違点を明らかにしたり、新たな考えをもったりする。	・自分の思いや考えを筋道を立ててわかりやすく伝える。 ・友達の考えとつなげて表現する。



めざす子どもの姿

低学年	自分なりの思いや考えをもち、友達に伝えることができる子
中学年	根拠をもって自分なりの思いや考えをもち、伝え合うことができる子
高学年	既習を活かしながら、根拠を明確にして自分なりの思いや考えをもち、友達と比べたり、伝え合ったりすることができる子

5. 研究の方向と視点

(1) 「考える力」を高める課題解決型授業の実践

課題設定→個の追究→集団の追究→ふり返りの4つの学習過程のある問題解決型の授業に、取り組んでいく。この学習過程を大切にすることで、意欲をもって学習に取り組み、追究する力を高めることができる。今年度は、特に「集団追究の場」を重点とし、実践していく。



重点 「話す力」「聞く力」をつけ、集団追究の場で「話し合い」の充実を図る

指針1・5・6

話し合いの場が充実するには、まず、自分の考えや思いを何とか分かってもらおうと話したり、相手の考えや思いを分かろうと聞いたりすることが大切である。書くことと同様に、考えを伝えるためのアイテムを獲得させ、使うことができるようにしていく。考えを伝えるためのアイテムは、教師が意図的に提示し、スキルアップを図る必要があるが、一方的に提示するばかりでは、子どもたちの中に考えを伝えるアイテムを使おうという意識はうまれない。子どもたちの中に見られたよいところを大いに認め、価値づけすることで全体に広め、活用する場を設けて定着を図っていく。

深まりのある追究となるには、教師の発問や板書の工夫も大切である。個々の考えを活かし、考えを分かりやすく整理したり、考えをさらに深めるような揺さぶりをかけたりすることで、追究する意欲が高まっていく。子どもたちが思考を深めるための教師の支援の在り方を検討していく。

また、様々な形態で伝え合う場をもつことも効果的である。一人ひとりに音声言語で表現する場を確保し、話す・聞く力をスキルアップさせるためのペア活動、より多くの意見を知るためのグループ活動など、目的を明確にし、必要感をもって取り組める効果的な形態を工夫していく。

- 考えを伝えるためのアイテム（基本的な話し方）を獲得させる
- 学習用語・既習事項を活用させる
- 思考を深め、ねらいにせまるための発問
- 授業の流れが分かり、気づきが生まれるような板書の工夫
- ペア、小グループ、全体など、考えを高めるための適切な場を目的をもって設定する



集団追究の場を充実させるために、他の学習過程も、以下のような視点をもって大切にしていく。

① 追究意欲が高まる単元構成や課題の工夫をする

指針1

各単元でつきたい力を明確にし、その力を育成するのに効果的だと考えられる単元全体を貫く言語活動や、それぞれの教科の特性を生かして自分の考えを説明・表現したりする言語活動を設定する。そうしていくことで、目的・相手意識をしっかり持って、主体的に学習材と関わっていくことができるようにしたい。

また、子どもたちの中に「追究したい」という意欲を課題ができるまでの過程を工夫したい。「あれ?」「どうして?」「考えてみたい」という児童の思いを引き出し、児童が主体的に課題をもつことができるようにすれば、意欲的に追究していくことができるであろう。考えが多く出るような課題、ねらいにあった課題など、児童がねらいを達成するのに、どんな課題がふさわしいかを検討していく。

- 子どもの「あれ?」「どうして?」「考えてみたい」という思いを引き出し、主体的に課題をもてる工夫
- 既習事項や前時までの学習を活かし、根拠や考えを明確に表現できる課題づくり
- 単元のゴールを見通した課題づくりと効果的な言語活動の設定

② 個の追究の場で「書くこと」の充実を図る

指針1・4

個の追究の場を設定する前には、課題の解決や達成のための見通しをもたせ、自分の考えを表現しようとする思いを引き出すようにしたい。その上で、解決する時間を確保し、「書くこと」で自分なりの考えを可視化し、結論を見いだしていけるようにする。そのために、ノートの書き方指導やワークシートの工夫などにより、考えを書き表すためのアイテムを獲得させることに力を入れ、自分の考えを適切に書くことができるよう日頃から指導していく。さらに、どんな事実をもとにしているのか根拠を明確にしたり、自分なりの解釈をもったり、図やキーワードなどを用いたりするなど、それぞれの教科に応じた、自分の考えや思いを表現する方法を、より多く獲得していくことができるように指導していく。

- 基本的な書くためのアイテムを獲得させる
(ノートの書き方指導・ワークシートの工夫、教科に応じた表現の方法の指導 など)
- 学習用語・既習事項を活用させる
- 既習事項をふりかえり、考えをもつことにつながる教室掲示



③ 変容を実感するためのふり返りの場を確保する

指針1・4

最終的には、課題に対して、1時間の授業を通してどんな深まりがあったか、どんなことが明確になったのかを、自分の言葉で適切にまとめることができることを目指したい。個の追究の場と同様に、「書くこと」で変容を可視化することが、学びのよさを実感し、さらに、自ら課題をもって取り組むことにつながるであろう。そのためにも、「ふり返りの時間」をしっかりと確保する。

また、算数科で新しい計算の仕方を作り出したときに、何を根拠にしてどのようにその計算の仕方を導き出したかをまとめる、国語科で物語を読んだときに、作品からうけとったメッセージをまとめるときのように、ときには、より多くの時間を確保して、じっくりと学びの過程や変容を表現させるようにしたい。

これらの活動は、教師にとって、児童の理解度を把握し、ねらいにせまるための支援を検討するとともに、児童一人ひとりのよさを認めることができる貴重な機会である。授業の改善にいかすとともに、一人ひとりのよさを広げ、学び合いの土台となるあたたかな人間関係を育むことにつなげていきたい。

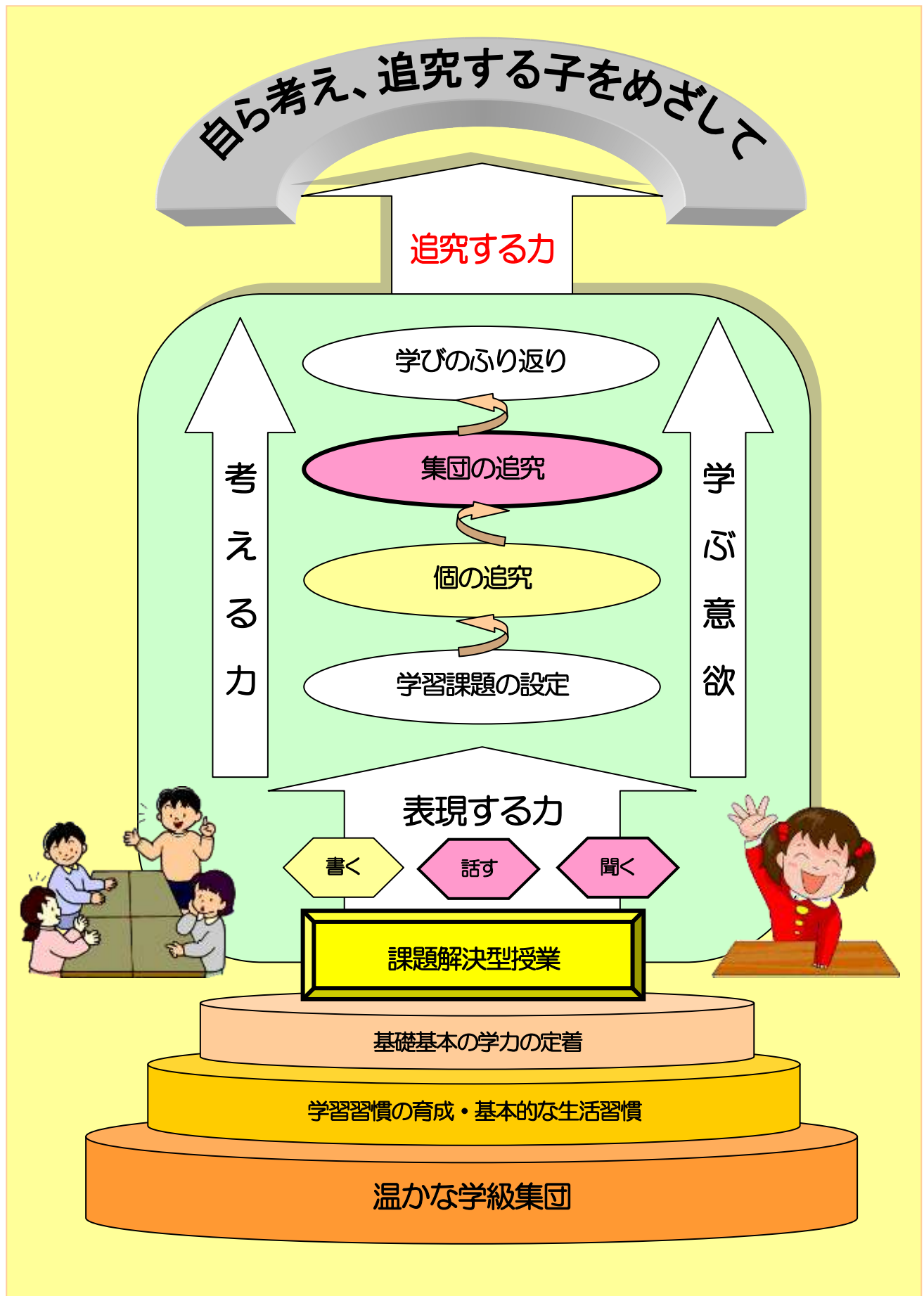
- 本時をふりかえり、自らの変容を自らの言葉でまとめるための時間の確保
- どんなよさがあるのかを明らかにし、次の意欲になるような朱書きの工夫
- 児童にみられたよさを広める機会の設定(学びのあしあとを記したノート交流など)

(2) 表現する力をつけるための取り組みの積み上げ

「表現する力」とは、以下のような「書く力」「話す力」「聞く力」である。

- 「書く力」・・・自分の思いや考えを根拠を明確にしてまとめて書くことができる力
- 「話す力」・・・自分の思いや考えを、適切な言葉を用いて相手に分かりやすく話すことができる力
- 「聞く力」・・・相手の話をしっかり聞き、その意図をとらえることができる力

発達段階に応じた「書く力」「話す力」「聞く力」の具体的な姿を段階表で示す。その姿にせまるための具体的な取り組みを考え、実践を積み重ね、確実に力を高めることを目指していく。



課題解決型授業

児童

教師

課題の設定

- ☆追究意欲が高まる
単元構成や課題の工夫
- 主体的に課題をもてる工夫
 - 根拠や考えを明確に表現できる課題づくり
 - 単元のゴールを見通した課題づくりと効果的な言語活動の設定

- あれ？不思議だな
- なぜだろう？
- 考えてみたい、やってみたい
- どのようにしたらいいかな
- 何かきまりがあるのでは？
- 〇〇ができるように取り組んでいこう

個の追究

- ☆「書くこと」の充実を図る
- 基本的な書くためのアイテムを獲得させる
(ノートの書き方の指導・ワークシートの工夫 教科に応じた表現方法の指導 など)
 - 既習事項をふりかえり、考えをもつことにつながる教室掲示

- 自分の力で考えてみよう
- できないところをできるようにしたい。
- 前に学んだことを使ったら解決できないかな
- 理由をはっきりさせよう
- 他のやり方でやってみよう

自分の考えをわかりやすく伝えよう
これまでに学んだ学習内容や
伝え方を使って表現しよう

既習事項・学習用語
を活用させる

集団の追究

- ☆「話す力」「聞く力」をつけ、話し合いの充実を図る
- 考えを伝えるためのアイテム
(基本的な話し方)を獲得させる
 - 思考を深め、ねらいにせまるための発問
 - 授業の流れが分かり、気づきが生まれるような板書の工夫
 - 考えを高めるための適切な場を、目的をもって設定する

- みんなの考えを聞きたい
- 自分の考えと同じだ
- 〇〇という点では、少し違うところがあるぞ
- どんなことを言いたかったのか質問してみたい
- なるほど、そんな考えもできるのか

効果的なペア
グループ対話の設定

学びのふりかえり

- ☆変容を実感するための
ふり返りの場をもつ
- 本時をふりかえり、自らの変容を自らの言葉でまとめるための時間の確保
 - どんなよさがあるのかを明らかにし、次の意欲になるような朱書きの工夫
 - 児童にみられたよさを広める機会の設定
(学びのあしあとを記したノート交流など)

- 課題に対する答えがはっきりしたぞ。
- はじめの自分よりも考えが深まった。
- 〇〇さんの考えの方は、とてもわかりやすかった
- 〇〇を使って考えたらできた
- 学習用語を使い、根拠をはっきりさせてまとめよう
- 次はこれを考えてみたい



【具体的な取り組み（予定も含む）】

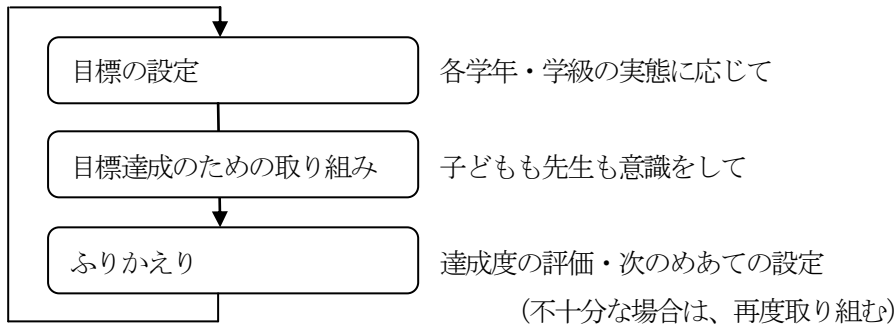
集団追究の場を充実させ、根拠・理由を明確にして表現させる

(1) ステップアップ表・カード等の活用によるめざす姿の具体化

～表現する力（話す・聞く・書く）の向上のために～

*表現力ステップアップ表

- ・子どもたちが、具体的にイメージをもてる表現に。
- ・学年・学級で目指す目標を設定し、それを1つ1つ身に着けて、ステップアップしていけるように。
(変容が意識できるようにしていく)



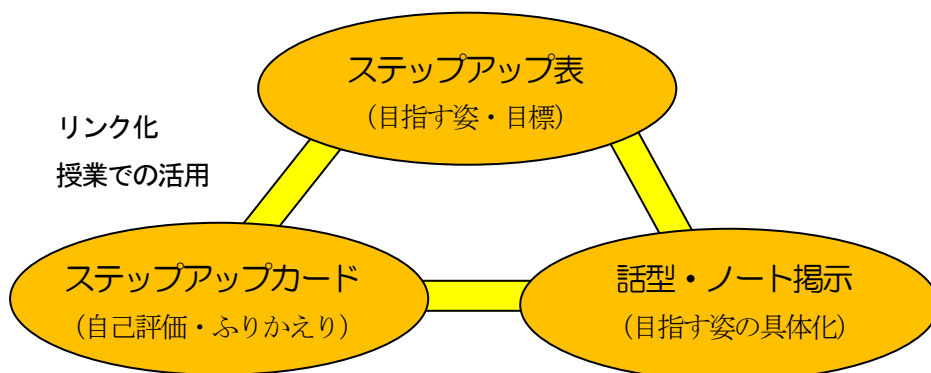
*ステップアップ表の具体的な姿を示す（話型・ノートの掲示）

- ・関連した話型の掲示
- ・「はなまるノート」のポイント、児童にみられたよさの掲示



*ステップアップカードの活用

- ・ステップアップカードで、全校児童が身に着け、あたりまえにしたい学習態度・表現力を明確化
- ・ステップアップ週間の設定により、意識化を図り、全校挙げてのそれぞれの力の向上に取り組む
(児童の評価から、弱点と思われるものを見出し、全校で一斉に取り組むことを通して、力の向上を効果的に図るようにする。＝6・7月に重点習慣を設定)
- ・学習便り「CATCHBALL」の発行により、学校の指導や取り組みについて知っていただく。



(2) 思考を深め、ねらいにせまるための、効果的な場でのペア対話の設定

集団追究の場において、学習のポイントとなるところで、ペア（グループ）での話し合いを設定する。

単に、ペア活動を設定して、話し合いを行わせればよいということではなく、意味のあるペア活動にする。



自分の考えを表現し合う（話す・聞く）・友達とかかわることで、考えを深め、友達のよさに気づく
クラスの児童一人ひとりに考えを話すことで表現する機会を保障する → 表現力のアップ

- * 「もう少しでできそう」というところで、ペアを入れる。
- * どんなことについて話し合わせたいか。どこがポイントかを考えておく。



ペア活動を通して、考えの数と質の変容を！

数の変容

発言しようとして挙手している児童の数が増える。(考えが持てた)

- ※ ペア活動をしたことで変化がないということは、
ペア活動の場の設定・発問が適切でなかったということ

質の変容

友達と話をしたことで、初めの自分の考えと変わった。高まった。(考えが深まった)。

- ※ 子どものペア対話の前後の変容をとらえて、全体に広め、友達とかかわりあいを持つことで
深まりが持てたことのよさを価値づけていく。

→ 必要などころで、子どもたち自身から「ペアで話し合わせてください」の声がでるようになってくるとよい。

(価値づけの例) ① ○○さんは、はじめノートに書いていないことを発表してくれました。

となりの□□さんと話して、新しい考えがうまれたんだね。

② 考えをもてた人がはじめは5人だったのに、20人に増えたね。

(3) 根拠・理由を明確に表現させるための発問・問い返し（教師の支援）

○子どもたちの発言の中でたりないものを発問して、考えのもとになった根拠や理由を明確に表現させる

*根拠があつて、理由がない場合 → 理由を問う

*理由があつて根拠がない場合 → 根拠を問う

事実（分かっていること）・叙述・既習事項など

○根拠・わけを明確にさせるための話型の活用

- ・根拠を明確にさせる 「○段落の○文目を見てください」「○○と書いてありますね」
「まとめてみると、こうなりますね」（問題文を数直線に表すなど）
- ・理由を明確にさせる 「～だから・・・と思います」 など

めざせ！ステップアップ 表現する力

～ 書く・話す・聞く ～



自分の
思いや考えを



友達の
思いや考えを



自分の
思いや考えを

話 す	聞 く		書 く
自他の考えをまとめ、 同じところ・ちがうところを 整理して話す	新しい自分の考えを つくったり整理したり しながら聞く	ステップ 6	理由や根きよを示し、 学習用語を使いながら 筋道を立てて書く
話の組み立てを考え、 分かりやすい順番で話す	自分の考えと 同じところ・ちがうところを 考えながら聞く	ステップ 5	理由や根きよを示し、 分かりやすく整理して 書く
根きよを はっきりさせて話す	友達の言いたいことを つかみながら聞く	ステップ 4	根きよを はっきりさせて書く
理由をつけて話す	反応を返しながら聞く (返事・あいづちなど)	ステップ 3	理由をつけて書く
聞く人の方を向き、 最後まではっきり話す	話す人の方を向き、 目を見て聞く	ステップ 2	分かったことを書く
教室全体に聞こえる声で はっきり話す	話をしないで、 しずかに聞く	ステップ 1	自分の思ったこと・ 考えたことを書く

内灘町立清湖小学校 学習だより 2013



CATCHBALL



2013. 5. 31 No. 2

みんなでステップアップ

～一人ひとりの、クラスの学びをたしかなものにするために～

新しいクラス・新しいなかま・先生と勉強を始めてから、2ヶ月。1学期もおろかえし地点です。みなさんには、今週、「学びのステップアップカード」で、みんなにできるようになってほしいことが、どれくらいできているかをチェックしてもらいました。結果はどうでしたか？

清湖小学校で学ぶみなさんには、この12のことが、あたりまえのことになってほしい。なぜなら、みんなにチェックしてもらった12のことは、学校で学ぶ一人ひとりが成長していくために、みんなでかしくなっていくために、どうしても必要なことばかりだからです。ステップアップカードでチェックしたことの意味を考えてみましょう。

1 ひっきょうぐ 筆記用具をきちんとそろえる

勉強になくってはならないものです。毎日、家でたしかめます。

ノートやプリントに、ていねいにしっかりと学んだことを書くことができるようにしましょう。



えんぴつ

家できちんとけずる
2Bくらいのこいもの
5本くらい入れておく



けしゴム

よく消えるもの
消しやすいもの



名前ペン
黒マジック



赤えんぴつ・青えんぴつ
大切なところを目立たせる・
まちがいを直すために
大切なアイテムです



じょうぎ

線をひくときは
かならず使う

学習のかまえ

2 やす じかん 休み時間のうちに

つぎの授業の準備をする

つくえの上に教科書・ノートがきちんと準備されていれば、チャイムのあと、すぐに勉強がはじめられますね。学校で一番大切な勉強の時間です。時間をむだにしないように、つぎの授業の準備は、休んだりあそんだりする前にしてしまいましょう。



3 ただ ふく 正しい服そう、

しせいですわる

服そうのみだれは 心のみだれといひます。服そうやしせいをきちんとすることで、心はすっきり！ 休み時間との気もちのきりかえをして、勉強にも集中しよう。



4 ひ かだい あか か 日づけ・課題(赤でかこむ)を書く

赤色の〈 〉でかこんで、課題をしっかりと書こう。
課題は、その授業で何について考えるかはっきりさせたもの。書いた課題を、みんなで解決できるようにがんばろう！



書く

6 じぶん おも かんが か 自分の思いや考えを書く

自分の考えをしっかりと書こう。完ぺきなものでなくても、とちゅうまででもだいじょうぶ。今まで勉強してきたことや知っていることを使って考えることを大切にしよう。



そのために…

- ・したじきをきちんとしこう
- ・できるだけていねいに書こう
- ・えんぴつで、こく書こう



7 なまえ へんじ 名前をよばれたら「はい」と返事をする

「わかりました」「今から発言します」「みんな聞いてね」「はっきりした声で発言するぞ」…。「はい」という短い言葉には、たくさんの意味があります。みんなとつながるためのスタートが返事です。気持ちのよい返事で、発言をスタートさせよう。

話す

8 きょうしつぜんたい き こえ はな 教室全体に聞こえる声で話す

きちんと聞こえる声で話せば、みんなが聞こうという気持ちになるよ。はっきりした声は、聞きやすいよね。自信がない人は、「はい」の返事・「はじめます」「おわります」のあいさつから始めてみよう。声をきたえるチャンスは、毎日たくさんあります。

9 じぶん かんが て はな 自分の考えを手をあげて話す

こうじゃないかな、でも、まちがえていたらどうしよう…。不安で手をあげていない人はいませんか？でも、あなたの考えで、みんなは新しい発見ができます。みんなに伝える力もつきます。手をあげて発表しよう。きっと発言することが楽しくなってくるよ。



10 ともだち ほう み はな 友達の方を見ながら話す

自分の考えを先生だけにつたえるんじゃ、もったいない！ クラスのみんなに聞いてもらいたいね。まずは、自分から一番遠い人に向かって、お話してみよう。それができたら、一人だけでなく、いろいろな人の目を見て話してみよう。



11 はな ひと ほう き 話す人の方をむいてしずかに聞く

お話をしっかりと聞く人は、それだけでたくさんのお話を学べます。先生や友だちが話しているときは、しゃべらない。それが、マナーですね。そして、あなたの話を聞いているよということが伝わるように、しっかりと話している人の方を向こう！人は目と目でつながっていくよ。

聞く

12 へんじ 返事をしたり、うなずいたりしながら聞く

「あなたががんばってお話をしていること、わたしは、ちゃんと聞いているよ」とわかるように聞こう。うんうんとうなずきながら聞き、「～ですね」と聞かれたら「はい」と反応ができれば、話している人は、うれしいし、もっとがんばろうと思います。

学習の基盤をつくるための全校的な取り組みの推進

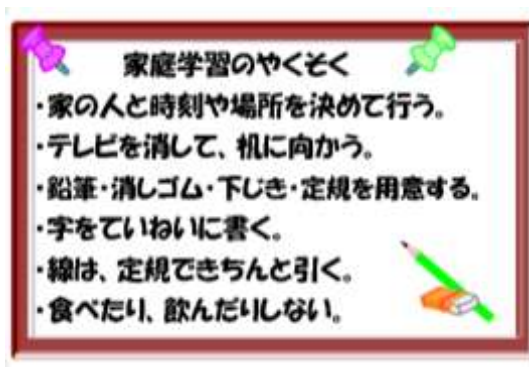
①各種学力調査により、基礎学力・表現力の実態をとらえ、弱点克服のための取り組みを考え、実施する。

- ・朝学習の計画的なプリント学習（国語・算数・社会・理科）
- ・校内学力実態調査から個別指導が必要な児童の把握 → 個別指導や補充授業 など

②家庭学習の習慣化を図る。

【学びの指針 7・9】

- ・10分×学年の学習時間の定着、学習時間に見合う基礎基本定着のための課題
- ・計算・漢字カススキルアップ週間
(全校一斉に期間を設定し基礎学力の向上を図る、家庭学習時間の記録、自己肯定感の向上)
- ・家庭学習のてびき・家庭学習のルール配布。PTA総会・懇談会での呼びかけ。



③読書活動の充実を図る

【学びの指針 8・12】

- ・朝読書（週3日・月～水）の時間の設定
- ・読書量や読書の履歴を可視化し、感想を記録するカードの活用
- ・読書カードを家庭に持ち帰る、いしかわ学校読書の日の宿題を読書にするなど、家庭への啓発・連携



④考えやわけ、筋道を立てて説明する力の変容を検証する

- ・単元テストから1問以上を選択し、式・答えだけでなく、考え方・理由を言葉や図も用いて表現させる。
- ・学力調査（学力向上プログラム）等から学習内容に関する内容を抜き出し、定着度を把握する。
- ・子どもたちのノートに記述内容を追跡調査し、その変容をみる。
→筋道を立てて、根拠・理由を明確に表現する力の伸長の見取りと、指導改善にいかす。